

出雲大社の本殿(資料)



映画と観光 古里をフィルムに焼き付ける理由②

銀座が出雲人が埋め立てた場所で、江戸時代まで出雲町と呼ばれていたと前回書いた。家康の命により、出雲富田藩の堀江氏が埋め立てを担当したことが由来のようだ。銀座7丁目、8丁目あたりにある花椿通りは以前、出雲通りと呼ばれていた。銀座7丁目で創業した資生堂は昭和の初めごろ不況が続き、出雲大社のお札を客に配った。たちまち大国さまの御利益があり、繁盛したという。

以来、毎年出雲大社さんのお札を全国の販売店に毎年配るようになった、というから、ご縁は深い。花椿通りには近年出雲市から送られた出雲椿が植えられている。資生堂の椿のマークは香油花椿というヒット商品により作られたもので、初代社長福原信三氏が何度も出雲地方に足を運ぶうち、八重垣神社の夫婦椿の由来を知り、魅せら

錦織監督

映画の現場から



●●● 29

大遷宮機にご縁広めたい

れた結果、花椿会となったようだ。氷川神社が簸川郡の「ヒカワ」だと書いてたが、東京の白山に「氷川」ではなく、「簸川」を冠した神社があった。社務所で尋ねると先代が出所を調べ大正時代に改名したという。映画「うん、何？」でヤマタノオロチやスサノヲノミコトの資料を島根から送ってもらおう、となった時、ほとんど東京の氷川神社所蔵の物で間に合ったのも今から思えば当たり前なのだ。

神田明神(神田神社)も大己貴命(オオナムチノミコト)いわゆるオオクニヌシノミコトと、スクナヒコノミコトが祭られている。社伝によれば、天平2(730)年、武蔵国豊島郡芝崎村に入植した出雲系の氏族が、大己貴命を祖神として祭ったのに始まる、とある。江戸総鎮守のこの神社は、神田、日本橋、秋葉原、大手丸の内、旧神田市場、築地魚市場、108町会の総氏神様である。

このような話を東京出身の若者に話すと、関東一円を出雲族の末裔が開いたことをすぐに悟ってくれたので驚いた。来年が遷宮だということも大きな理由ではあるが、今夏に出雲、島根を訪れてみたい、と話してくれた。この縁を語ることによってさらに多くの人たちがまた出雲を訪れてくれると思う。いずれそんな映画を作りたいとも思う。

全国にある「出雲」は日本海側のみならず四国や九州はじめ東北、関西津々浦々に残っている。知れば知るほど、国造りをされたオオクニヌシノミコトへの信仰がいにしえよりいかに綿々と現代に受け継がれてきたかということを感じさせられる。来年の平成の大遷宮をきっかけに、多くの若者にこの歴史観が伝わり、さらなるご縁が広がるといいな、と思いつながら、それには出身の私たちこそもっと知り、伝えなくてはならないと猛省している。